



鳥取市総合教育センターだより

第5号 令和6年3月12日発行

〒680-0053
鳥取市寺町 150 番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

明日への一歩

所長 中村 礼子

桃の花がほころび、小鳥のさえずりもあちこちから聞こえるようになりました。巣立ちの3月です。子どもたちの大きく成長した姿に喜びを感じるとともに、これからの活躍に期待し、エールを送りたくなる季節です。

さて、今年度、不登校児童生徒の出現率は、小学校・義務教育学校（前期課程）および中学校・義務教育学校（後期課



程）ともに前年度を上回りました。生徒間暴力等の暴力行為も増加しています。さらに、児童生徒を取り巻く貧困・虐待・ヤングケアラーなどの課題について、その背景は一人一人多様化しています。不登校児童生徒の様子を見ると、約80%が教員以外の関係機関につながり、支援を受けています。また、残り20%のうち、60%の児童生徒がしっかり教員とつながりながら継続的・断続的に登校しています。各学校でのきめ細やかな支援と多様化する要因への対応として、関係機関との適切な連携がなされていることがわかります。

鳥取市総合教育センターでは、児童生徒の安心できる居場所として、一人一人のニーズに応じた学びの場を提供するためにサポートルームの運営やオンラインサポートルームの開設に取り組んでいます。サポートルーム「すなはま」では、3月19日（火）に修了式を行います。「おはようございます」のあいさつができるようになったり、計画的に自主学習に取り組むことができたり、サポートルームに通うことで自信をつけ学校への登校が増えたりした姿をたくさん見ることができました。なかには、希望校への高校進学を果たし、喜びの報告をしてくれた生徒たちもいます。一人一人自分なりのがんばりをしっかりと認め、互いに喜び合うとともに、次への一歩としたいと考えています。

鳥取市の児童生徒が、安心して学ぶことができる環境づくりをめざして、多様性を受け止め、共に学び育つ集団作り・学校づくりのために、総合教育センターにできることは何だろう、と考え続けた1年間でした。これからも総合教育センターにできることを1つ1つ学校へ、児童生徒へ届けていきたいと考えています。

本年度も皆様のご理解とご協力のおかげで、全ての教職員研修を無事実施することができました。感謝申し上げます。

昨年度より、教職員研修をさらによりよいものとするを目的に教職員研修アンケートを実施しています。アンケート項目は、「鳥取市教職員研修ガイド」に掲載している研修目標1～3に対してご自身の実践がどうだったか回答していただく形で設定しました。アンケート結果からは、教職経験の少ない先生方の自己有用感の育成に関する取組に成果が見られました。また、Myアイデアシートを使いながら研修と学校とをつなぐ取組を実践している先生方も増えています。

今後も、アンケートで皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、教師力アップ・学校力アップをめざした教職員研修を実施していきます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度 教職員アンケート調査 結果と考察

<結果>

- ・経験の少ない育成期から向上期も児童生徒同士の豊かなかかわり合いのある学校・学級づくりに意欲的に取り組んでいる。
- ・eラーニング教材を用いた学習や個別の学習到達状況に合わせた課題の配信など、ICTを「徹底」の場面に生かしている。
- ・児童生徒の課題意識から生まれる学習意欲を大切にした授業づくりには課題が見られる。
- ・⑧は6年目研修受講者では「できた」の回答率は21%にとどまった。研修での学びを広く校内で共有する点において課題である。
- ・コラボ研修に対する肯定的な振り返りがあり、受講者が共同推進者となって研修の学びを広く自校で生かそうとしている様子が見える一方、「(コラボ研修により)校内行事の日に複数の受講者がいると、人手が足り苦しい状況となる。」といった意見もあった。

<考察>

- ・鳥取市では、児童生徒の自己有用感の育成を目指し、「学級づくり研修」やコーチングや自己有用感の育成と自治的な集団づくりに関するコラボ研修(6年目・中堅)を実施し、効果を上げています。今後も、協議・演習等を通して、自己有用感の育成を実現できる学級経営や児童生徒との接し方に関する新たなアイデアを得られるような研修を実施したいと考えています。
- ・学力向上に関する質問項目③④とICT活用研修の受講有無に関する⑤⑥の回答結果とをクロス集計すると、ICT研修受講者のほうが前時と次時とのつながりを意識したためあてづくりや、学習内容の定着を図るための時間を毎時間設定していたと回答している割合が高く、ICT活用が授業改善を推し進めていることが考えられます。総合教育センターでは、ICT活用研修や学力向上に関する研修の多くが希望受講可能です。より多くの先生方に研修での学びを実践に活かしてもらえよう、受講対象者以外の積極的な受講を奨励していきたいと考えています。
- ・中堅教諭等資質向上研修では、前回の研修を通して得たMyアイデアを各校でどのように共有・推進したか等、その取組を受講者同士で共有する機会を毎回設定しました。研修を通して、共同推進者を募りながら取組を推進していくような中堅教諭のリーダーとしての意識の醸成を図るため、学校訪問や実践発表の際の声かけを行うなど、総合教育センターとして支援したいと考えています。6年目研修でも、研修と学校とを往還させながら向上期のモデルリーダーとしての自覚が高められるような研修にしていこうと考えています。
- ・研修に参加するために同じ日時に複数の先生が不在とすることが難しい学校が増えつつあることから、今後、研修形態や開催時期等、コラボ研修の在り方を検討していきます。

令和5年度 教職員アンケート調査結果(グラフ)

・成果指標 1 (学力向上) について

4段階評価(青:できた 赤:ややできた 黄:あまりできなかった 緑:できなかった)

重点項目	具体的な姿	肯定的回答の目標値	令和5年度結果
I 自己有用感の育成	①児童生徒が豊かなかわりの中で自分や周りの人のよさに気づくような手だてを講じた	95%	
	②スクリーニングやアセス、QU等の諸検査結果を支援に活かした	90%	

・成果指標 2 (学力向上) について

4段階評価(青:できた 赤:ややできた 黄:あまりできなかった 緑:できなかった)

重点項目	具体的な姿	肯定的回答の目標値	令和5年度結果
II 学力向上	③学習意欲を高めるために、前時の振り返りから児童生徒と共に具体的なめあてづくりを行った	80%	
	④学習内容の定着を図るための時間を、毎時間設定していた	90%	

・成果指標 2 (ICT活用) について

2段階評価 (青:できた 黄:できなかった)

重点項目	具体的な姿	肯定的回答の目標値	令和5年度結果
II ICT活用	⑤ICTを活用する授業が行えるように研修(校内も含む)を受けた	90%	
	⑥ICT機器の活用場面を意識した授業づくりに努めた	60%	

・成果指標 3 について

2段階評価 (青:できた 黄:できなかった)

重点項目	具体的な姿	肯定的回答の目標値	令和5年度結果
III Myアイデアの活用・学校力アップのための推進力強化	⑦Myアイデアを自分の業務に活かそうとした ※研修受講者のみ	90%	
	⑧学校力アップにつながる案を分掌会、プロジェクトチーム等に提案した ※6年目・中堅教諭のみ	60%	

令和5年度 コラボ研修に関する結果 (グラフ)

・My アイデアの共有等について (6年目・中堅教諭のみ)

2段階評価 (青:できた 黄:できなかった)

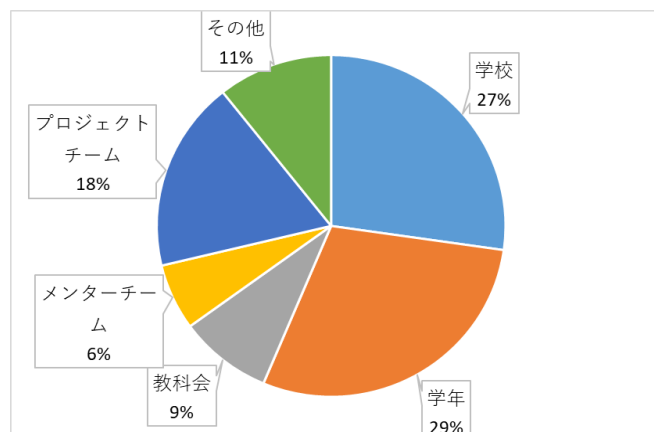
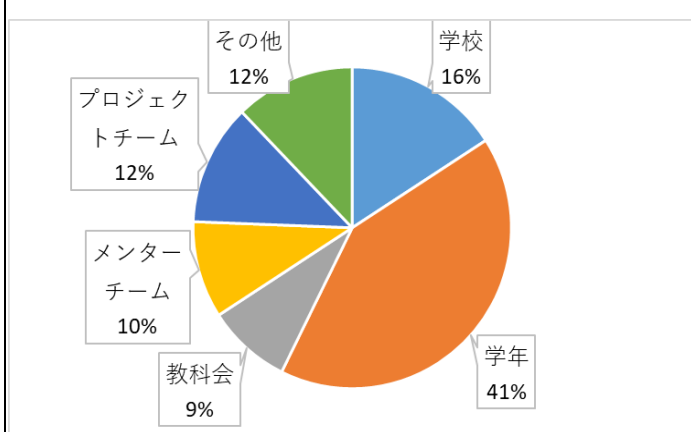
重点項目	具体的な姿	肯定的回答の目標値	令和5年度結果		
			できた	できなかった	
3 Myアイデアの活用・学校力アップのための推進力強化	⑨学校力アップにつながる案を管理職に提案した ※6年目・中堅教諭のみ	50%	中堅	55%	45%
			6年目	14%	86%
	⑩学校力アップにつながる案を分掌会、プロジェクトチーム等に提案した ※6年目・中堅教諭のみ	60%	中堅	55%	45%
			6年目	21%	79%

・共有した単位・相手について

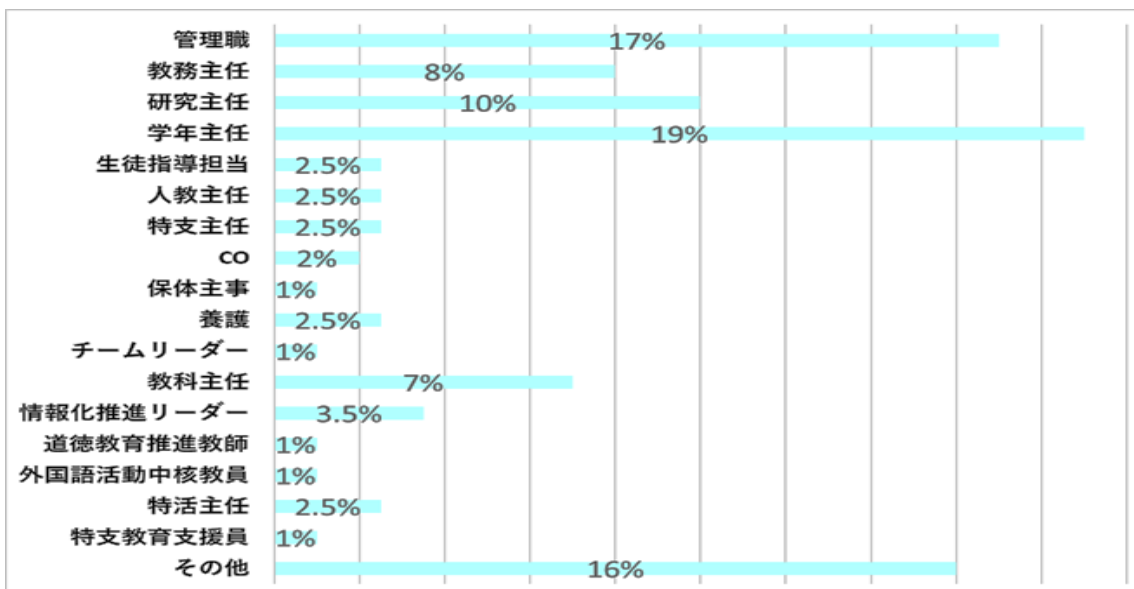
共有した単位

中堅教諭・6年目

中堅・6年目以外の市教職員研修受講者 (管理職は除く)

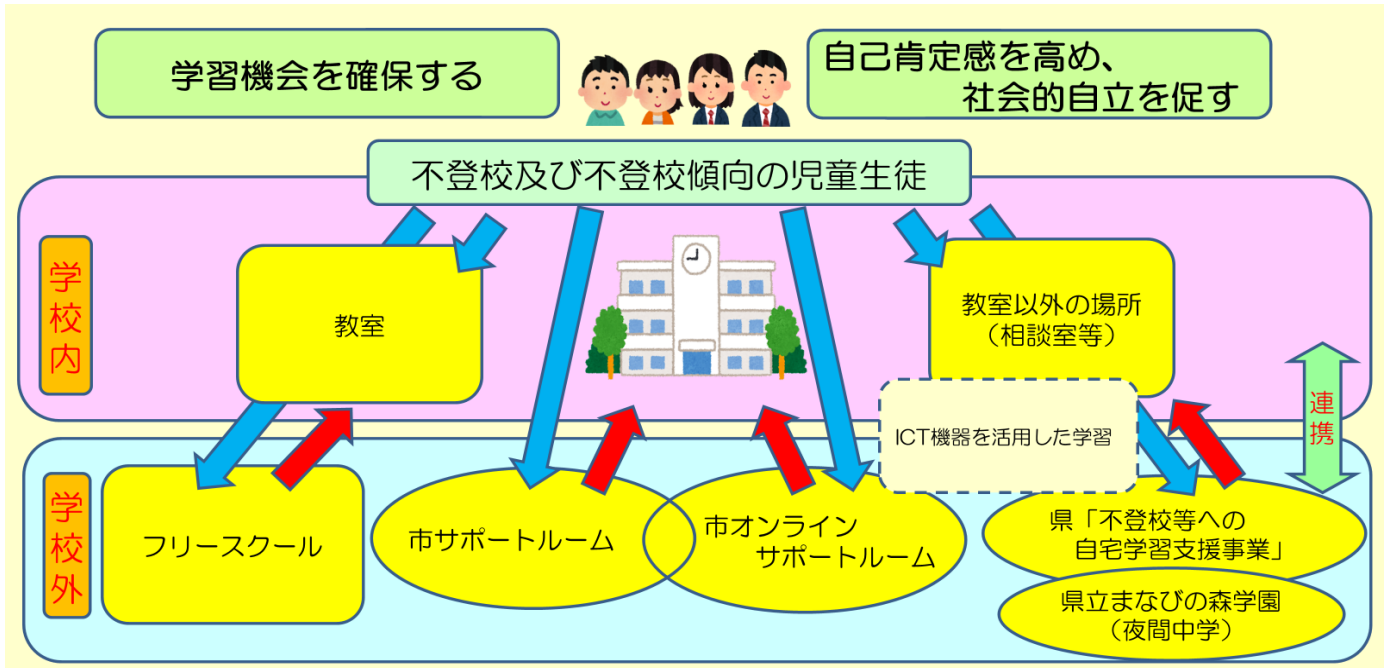


共有した相手 (中堅教諭・6年目)



多様な学習機会の確保について

鳥取市小・中・義務教育学校の不登校児童生徒数は全国同様に増加傾向にあります。不登校児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することをめざしていくためにも、支援のニーズを把握しながら、不登校の子どもたちが学びたいと思ったときに学べるよう、多様な学習機会の確保が必要です。



「チーム学校」としての支援

教職員とスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）等の専門性を持つ職員が1つのチームとなって、児童生徒の支援等に当たるとともに、児童生徒が必要としている支援ニーズを把握し、児童生徒を中心に据えて、保護者や学校、教育委員会、関係機関等がしっかり連携していくことが大切です。また、教職員はもちろん、児童生徒や保護者がスクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）の役割をしっかりと知っておくことは、早期の相談活動に展開できるなど、支援の促進にもつながります。各学校においては、学校だよりやホームページ、学校説明会等で説明されていますが、今後も様々な形で周知していくことが大切です。

スクールカウンセラー（SC）の職務内容

- (1) 児童生徒へのカウンセリング及び心理教育の実施と保護者への助言・援助
- (2) 児童生徒、学級や学校集団に対する見立てと教職員への助言・援助
- (3) 不登校、いじめ等を認知した際の援助、自然災害、突発的な事件・事故等への緊急支援 等

スクールソーシャルワーカー（SSW）の職務内容

- (1) ケースのアセスメントと課題解決のためのプランニング支援（ケース会議等でのコンサルテーション）
- (2) 児童生徒が抱える様々な課題解決に向け、児童生徒が置かれた環境への働きかけ（福祉サービスや関係機関・地域資源等の情報提供等）
- (3) 関係機関とのネットワークの構築、連携・調整 等